

令和元年度の田作り ～第13期大椎っ子田んぼ、第10期あすみっ子田んぼ 脱穀～

令和元年の小学校田んぼの田作り。しめくくりは脱穀でした。5月から6ヶ月に亘った作業を振り返り、長いと感じたり、あっという間と感じたり、収穫量は。。。少ない、と感じたり、たくさん取れたと、感じたり、さまざまでしたが、どの子も、充実感とともに、感謝の気持ち、お米を大切にしようという気持ち、を一層深く感じた様でした。 ※ 紙面の都合、代表的な感想をピックアップして、短めに編集しちゃっております。ごめんなさい！

◎大椎小学校（10月24日実施）

※ 玄米で17.3kgの収穫量でした。それを精米後15kgの白米になった様です。

★昔ながらの機械でいろいろ出来たので、気分があがりました。約半年ほど頑張ってきて、良かったなと思えた一時でした。私達が作ったお米の量を計ってみました。すると15kgでした。何だか少ないなと思いましたが、先生がお茶碗200杯分だよと話してくれたので意外と多いのだなと思ひ少し安心しました。自分たちで作ったご飯はおいしんだろうと思うと楽しみです！！

(M.O)

★約半年かけて作ったお米を改めて見ると、とても量が少なくてびっくりしました。稲全体を見ると量が多く見えるのに、穂だけをみると量が少なかったため、私達がいつも食べているお米は沢山の稲を育てているんだと感じ、米作りをしている人達はすごいなと思いました。米作りは大変でしたが、とても楽しかったです。(S.H)

★食べられる白米にするまで、こんな苦労があるとは思っていませんでした。千歯こきや足踏み脱穀機で脱穀した後、手で残った粃を取り去る「もみとり」がとても大変でした。苦労して作ったお米も白米だけにしてしまえば、たった15kgしかなくなってしまいおどろきました。もっと米一粒一粒を大切にしようと思いました。(Y.S)

★粃摺り機でお米を判別する時、だめなお米がすごく多くてびっくりしました。精米し終わったお米と粃の時、はだざわりが違ってすごくびっくりしました。(C.N)

★千歯こきや、足踏み脱穀機など、ちゃんと穂がとれる仕組みになっていて、とても興味もてました。今の時代全て機械でやって、きちんと穂(粃?)がとれるようになっているのに、臼やすり鉢で、ちゃんと粃が取れていたのおどろきました。また、何度でも米を作りたいと思いました。(F.T)

★足踏み脱穀機は一度にたくさんの米とれてすごいと思いました。けれどもずっとふんでいないといけないので大変だと思いました。千歯こきは足踏み脱穀機より大変でした。なぜなら手で引っ張って少しずつとっていかないといけないからです。わたしがとてもすごいなと思ったのは手作りの臼です。たくさんのくぼみなどがあって手作りだとは思いませんでした。実際にやらせてもらって、たくさんの粃がとれて綺麗な米が出てきました。(E.T)

★足踏み脱穀機で脱穀をしました。その時Jさんが何回も踏んで『ンガーガーガーガー』となってボランティアの人が『もう踏まないで良いよ！！うわっこわ！！』と言っていました。色々あったけどとても楽しかったです。(K.O)

★「あ、意外と作業が少ない？簡単～」とか思ってたら粃とりが超大変。次から次へと入って来るわりに作業スピードが追いつかない。こりゃ、マズいよ！とか思ったが、Mさんが「よるピク～」と言ってからわらを置いて行った。ちょっとだけ元気が出ました。唐箕の作業はみんな楽しそうにやっていました(超高速で回す人もいたぞ！)。(T.S)

★おにぎり200個分の米をとれて良かったです。みんなで協力した証拠だと思います。野球のボール楽しかったです。(Y.M)

★電気で動く「粃摺り機」とYPPの方の「手作り粃摺り機」などで粃摺りをしました。最後に藁なえをしました。藁なえとは、食べられない藁の部分を縄のように結ぶことで



(名無しさん)



す。すごく楽しくて先生も超す大体2mまで行きました。(A.H.)

★足踏み脱穀機は、足で踏んで、とげみたいなのところを回して、そこに稲を当てます。そうすると、どんどん籾が獲れます。千歯こきは、とがっているところの間にに入れて、引っ張ります。そうすると籾がとれます。特にすごかった機械は唐箕です。唐箕は玄米が中に入っている籾と、入っていない籾を分けられます。田んぼのことや脱穀のことをたくさん知れて良かったです。(Y.K.)

★千歯こきで稲を取ると、しだれていたのにピンと立ちました。楽しかったのでもう一度やりたいです。(千歯こきでやったら米がめっちゃ飛んで来ました!)(J.M.)



◎あすみ小学校(10月29日実施)

※玄米で20.8kgの収穫量でした。

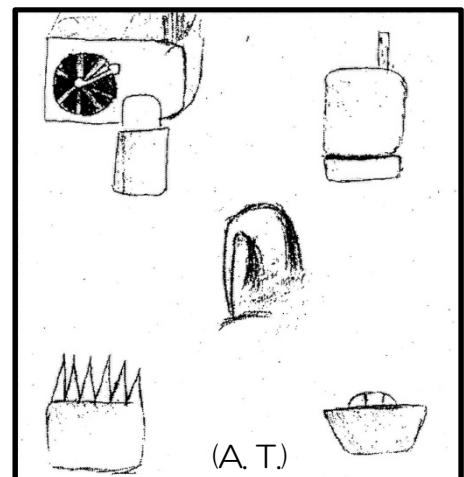
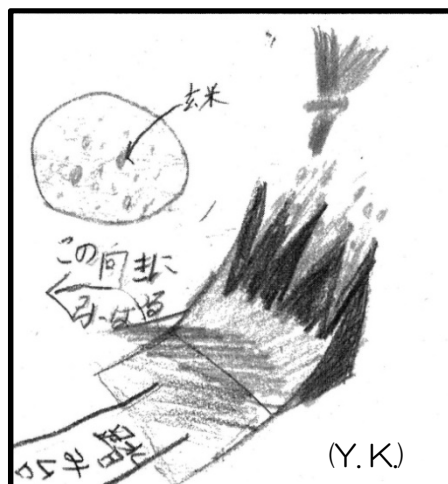
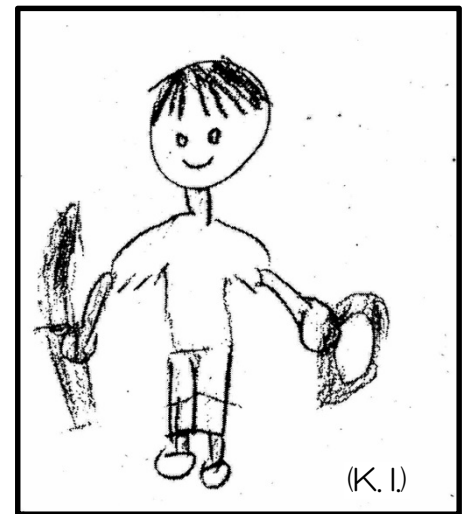
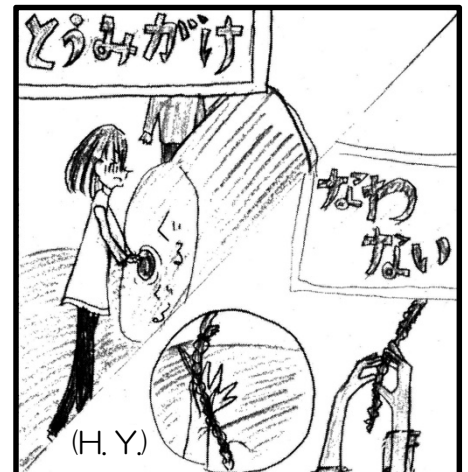
★1年間がんばって育てたお米の脱穀をしました。私が一番すごいなと思ったのは、なわなです。お米を取った稲は全て捨てると思っていたけれど「この残った稲は捨てるのではなくなわなをする」と聞いてびっくりしました。私が、大変だなと思ったのは唐箕がけです。見た目は大きな物だけど、実際は軽いのかなと思い、動かしてみたらとても重くて「とても大変だな...。」と思いました。終わりの『まとめ』では初めのころの田んぼを思い出して「ここまで頑張ってきたな」と実感しました。これからお米を食べる時には、自分たちが大切にそだてたお米だと思い、感謝したいです。(H.Y.)

★脱穀は、ほくが始めて知る道具ばかりで、ちゃんと使えるか心配でした。

足踏み脱穀機は意外と足に力を入れないと上手にできないし、千歯こきもとるのが難しくて昔の人の苦勞が分かりました。なわなもうまくねじれなかったりして、大変でした。とうみがけでは穴から出てくるのが違い、昔の人の知恵がつまっていると思いました。もみすり機は昔の道具と今の道具ではまったく違い、昔の道具はがんばって回して使うけど今ではもみを入れるだけでできてほくは、どっちもいいと思いました。(K.I.)

★お米は昔からあり、昔から親しまれている。それに昔からの人々はお米を作るために、たくさんの時間をかけ手作業でお米を1~10まで心を入れて努力してお米は完成することを、総合の学習でよくわかりました。また昔の人々は手作業から機械へ年がたつにつれて、どんどん進化していき、足踏み脱穀機やもみすり機などになってお米を作るときに楽になってお米もたくさん食べて行けるぐらいになりました。これは昔の人々から現在の人々までが時間をかけてまでもお米を大切にしてきたおかげだと思いました。(A.T.)

★一番心に残っていたことは、唐箕です。ハンドルみたいなのをグルグルと回すとプロペラが回転して、軽い物だけ飛ぶとう唐箕はすごい物だなと思いました。ほくがやっている時に気付いたことは、1人ではできないことです。入れる人、押さえる人など複数的人数が必要だと思いました。5月から始まり、気付いたら5~6ヶ月たっているということに、1年も、米の成長もそう早くはなくて、どっちも少しずつ育っているとなると、自分のことや、他の物のことを今までとはレベルを上げて、1つ1つに感謝していきたいです。(Y.K.)





里山たんけんレポート

第238回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2019年11月3日(日)曇

林内を一巡、今年の気候はキノコには適していなかったようです。キノコの姿は少ない状態のままでした。その中で観察を続けていたムシオオイチョウタケは成長が止まっているようでしたが傘の径は31cmになりました。谷津に出て定例コースを巡りましたが、台風15号の強風による倒木が目立ち、19号による大雨で流れ込んだ水は谷津内を川のように流れたようでその痕跡が凄まじく残っていました。もう一つ目立っていたのは昨日出現したのではないかとと思われるイノシシが荒らし回った痕やアライグマの足跡がたくさんついていました。曇天で生きものの姿は少なく、トンボの調査も兼ねて行いましたがわずかにウスバキトンボと思われる飛翔している姿を一つ見ただけでした。谷津内の草々は泥水をかぶって気の毒に思える状態でした。ゴミが流されてきていてゴミの収穫のみが多い観察会になりました。



参加12名(大人11名、幼児1名) 報告 網代春男・写真 田中正彦

第242回 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

2019年11月2日(土)晴

みんなでおだから稲束を外して脱穀機の脇へ運びました。子どもたちも両腕にいっぱい稲束を掛けて運びました。脱穀機が動いている間に保管してあった古い稲束を田んぼに投げ入れたり、おだの竹を撤収して、後片付けも同時進行で川原側に進行していました。緑米脱穀の終盤になって脱穀機の調子がおかしくなりました。稲束を送り脱穀をする動力を伝えるベルトが劣化して切れる寸前になり緩んで外れてしまいます。それでも圧を掛けずにだましまし動かしながら作業を続けました。結局赤米と黒米の脱穀が残ってしまいました。3日朝、修理屋さん来て貰い応急処置で動かし、残った脱穀を終えました。脱穀の終わった粳は手分けして持ち帰り、粳すりまで預かって貰いました。



参加 41名(大人22名、小学生11名、幼児8名) 報告・写真 網代春男

第243回 下大和田 YPP「粳すり」

2019年11月16日(土)晴

今年は大草いきもの里での粳すりとなりました。部品を交換し、粳り機の修理をしたため、昨年までは2回機械にかけていた粳すりも1で済み川原側に作業することが出来ました。例年のことですが子どもたち大活躍、粳すり機への粳の投入を殆ど担ってくれました。早く終了出来たのでお昼の後、希望者と大草いきもの里の中をひとめぐりしました。こも台風による倒木などが目立ちましたが遊歩道は片付けられていました。田んぼの景観はなかなか良いものでした。田んぼの土手際に咲くノラアザミがきれいでした。



参加 32名(大人18名、小学生10名、幼児4名)
報告・写真 網代春

里山クラブ 森と水辺の手入れ

2019年11月17日(日)晴

収穫祭に備え、わいわい広場の草刈りをしました。すっかりきれいになった広場は明るくとても広く感じられました。林内はヒラタケが発生し始め、採り頃になったものは干しヒラタケにして保存、収穫祭で味わうことにしました。未だ小さいものもありましたので、2、3日後にまた収穫出来そうです。栽培のシイタケも小さい芽を出してきていました。昨日もみすりをして出た粳殻を田んぼに投入しました。参加8名(大人5名、小学生1名、幼児2名、) 報告 網代春男

第182回・183回 小山町 YPP「緑米の稲刈り、脱穀」

2019年11月3日(日)曇、17日(日)晴

3日は、緑米の稲刈りを終了させました。17日は、赤米、黒米、緑米の脱穀作業を行い、その後、暗渠の脇が土砂崩れで土がえぐれてしまった部分を、修繕し始めました。一旦終わるところには真っ暗でしたが、気持ちが良かったです。

参加4名(大人4名、) 報告 たんぽぽ

<谷津田・季節のたより>

小山町

11月 3日 褐色型クツワムシ、しっとり濡れた草陰にひっそりと弱々しく。
(赤シャツおやし)

11月 11日 コジユケイの群れ。(たんぼぼ)

11月 17日 軋み音に反応したか? ジョウビタキの囀り、唐箕作業とアンサンブル。
(赤シャツおやし)



クツワムシ 撮影 たんぼぼ

下大和田

11月 17日 野生のヒラタケ出る。干しヒラタケにして収穫祭で味わいます。(網代)

11月 19日 植栽のナメコ2株収穫。24日にも収穫。冷凍にします。(網代)

11月 21日 アライグマのわなにタヌキがかかる。すぐ開放。(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第244回 下大和田 YPP 「収穫祭」

一年の締めくくり。みんなで作った緑米で餅をつき収穫を祝います。

日時: 2019年12月14日(土) 9時45分~15時 雨天延期

場所: 千葉市緑区下大和田谷津

集合: 現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に
網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。

交通: JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車。徒歩5分で
現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は550円。

持ち物: 弁当、飲み物、お皿お椀など食器、箸、長袖・長ズボンの服装、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員300円、一般500円(小学生未満無料)、米作り年間参加は別途済み。

主催: ちば環境情報センター 共催 ちば・谷津田フォーラム

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

林内の下刈り、倒木の整理をします。チェーンソーをお持ちの方はご持参ください。

日時: 2019年12月15日(日) 9時45分~12時 雨天中止。

場所: 千葉市緑区下大和田谷津 集合、交通: (同上) 初めて参加の方はご連絡下さい。(同上)

交通: 同上

持ち物: 弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、敷物、あればヘルメット。

主催: ちば環境情報センター

▼第240回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

鳥の姿を求めながら鹿島川の合流部まで巡ります。

日時: 2020年1月5日(日) 9時45分~12時 雨天決行。

場所: 千葉市緑区下大和田谷津 集合、交通: (同上) 初めて参加の方はご連絡下さい。(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する
方は弁当、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム

▼第184回 小山町 YPP「もみすり」

今年収穫したお米を、もみすり機を使って玄米にします。

日時: 2019年12月21日(土) 9時~ ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

■編集後記 10月の脱穀作業をもって、小学校たんぼの「田作り体験」は無事完結しました。今季は秋に入ってから度重なる台風被害など、かつて無く波乱のある経過ではありましたが、子どもたち全員が味わうに足りる収穫量を得られ、とてもホッとしております。これもひとえにボランティアの皆様のご助力、先生方のご指導と熱意、子どもたちのパワーの賜物かと思えます。心より、心より感謝申し上げます。

さて、師走に入りました! 谷津田の復旧、来春の準備、こつこつ始めて参ります! (赤シャツおやし)